

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州\_2014(v2.0)

## 1 建物概要

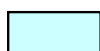
建物名称	旭興産グループ 真空機器第三工場新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	----------------------	-----	---	--------	----	-----

## 2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.5 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.6 /5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	2.6 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 2 点未満	

## 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.4.01)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.5	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.5	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.4
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.6
<自由記述> ・グリーン購入、エコマーク商品の採用		<自由記述> ・給水管、給湯管で耐用年数の長い材料を採用	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.6	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.2	LR2/ 1.1 節水	スコア 4
<自由記述> ・省エネ機器の採用		<自由記述> ・節水型機器の採用(自動水栓、祇園装置、節水型便器)	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.7	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 3
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
<自由記述>		<自由記述> ・既存部分を含め敷地内に緑地整備	
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	建物の外皮性能(BPI評価)	
<自由記述>		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	
		0.63	
		建物の一次エネルギー消費量(BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅:—	
		0.89	
		外構緑化指数	
		26%	
		建物緑化指数	
		0%	



:入力欄



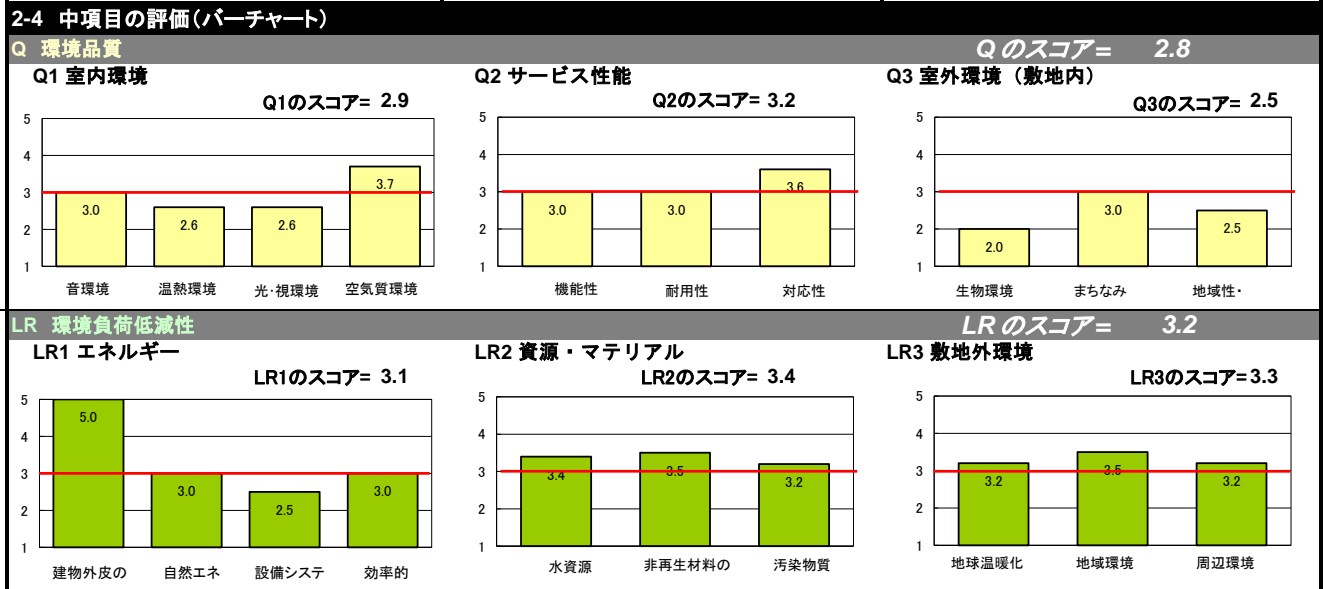
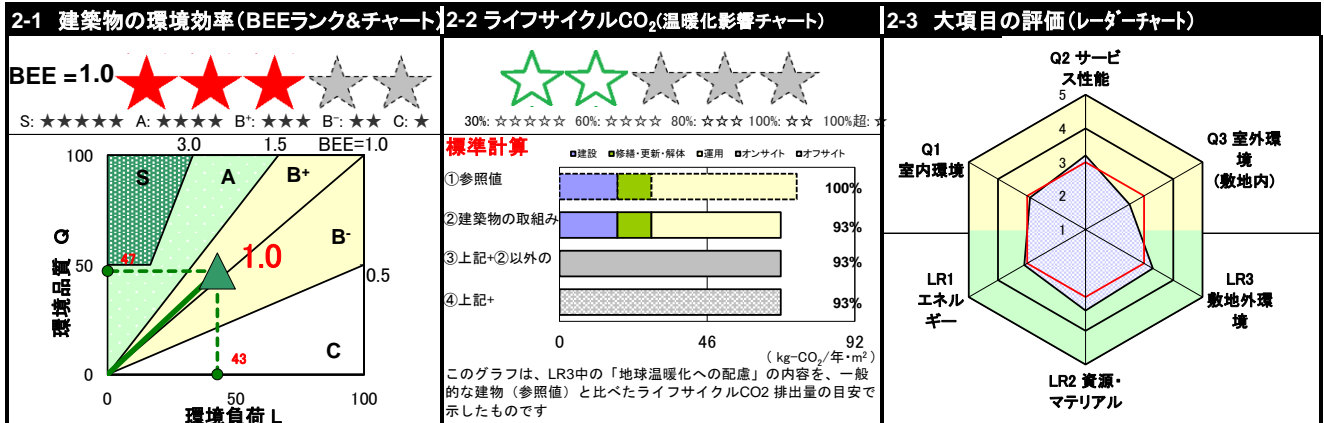
:CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	旭興産グループ 真空機器第三工場新築工事	階数	地上4F
建設地	福岡県北九州市門司区新門司北1-3-7,-8	構造	S造
用途地域	準工業地域、指定なし	平均居住人員	90 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2023年1月10日
敷地面積	24,306 m <sup>2</sup>	作成者	稲葉 伸夫
建築面積	2,934 m <sup>2</sup>	確認日	2023年1月11日
延床面積	4,327 m <sup>2</sup>	確認者	稲葉 伸夫



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
・敷地内の他の建物と色調を統一、周辺景観とも調和させた。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・F☆☆☆☆建材を使用。 ・喫煙室を4F(屋上)に設け、施設内と分煙を行い空気質環境に配慮。	・階高、天井高にゆとりをもたせ、室内空間の開放感を高めた。	・敷地内に緑地を設け、温熱環境に配慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・複層ガラスを採用し熱負荷の低減に配慮 ・高効率(LED)を採用しエネルギーの削減	・現場発泡ウレタンフォームはノンフロンを採用する。 ・節水コマ等に加えて、省水型機器(節水型便器等)を使用している。	・適切な数の駐車スペースを計画

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**旭興産グループ 真空機器第三工場新築工事**

 ■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

スコアシート								
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.8
Q1 室内環境					0.33		-	2.9
1 音環境				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		-		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		-		3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		-		3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-	
1.3 吸音		-		3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境				2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御		-		3.0	0.50	-	-	
1 室温		-		3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		-		3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		-		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		-		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				2.6	0.25	-	-	2.6
3.1 昼光利用		-		1.8	0.30	-	-	
1 昼光率		-		1.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		-		3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		-		3.0	1.00	-	-	
3.3 照度		-		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		-		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				3.7	0.25	-	-	
4.1 発生源対策		-		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		規制対象品は全てF☆☆☆☆		4.0	1.00	-	-	
4.2 換気		-		3.0	0.30	-	-	
1 換気量		-		3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		-		3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		-		4.0	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		-		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		4階喫煙室設置		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.2
1 機能性				3.0	0.40	-	-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ		-		2.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		-		1.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-		3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		-		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		-		3.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		3階事務室天井高3.0m及び窓設置		5.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		休憩室134.92㎡+自販機設置		5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		-		1.0	0.33	1.0	-	
1.3 維持管理		-		3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		・WCの床材防汚性の高い材料(抗菌仕様) ・WCの床面は適度な水を使用して洗浄可能 ・埃の溜まりにくい設計(壁掛式小便器) ・大きく異なる床材の接近なし ・外壁面は耐候性の高い塗料を使用 ・外部鉄部は溶融亜鉛メッキ		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		-		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		-		3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管・給湯管B(硬質塩ビライニング鋼管) 汚水・雑排水管B(硬質塩ビ管)		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		-		2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		-		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		-		2.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	(事務所用途)基準階階高(3階)=5.2m (工場用途)階高平均(1~4階)=4.2m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	(事務所用途)壁長さ比0.098(3階) (工場用途)壁長さ比0.059(1階)	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>		-	<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.37</b>	-	-	<b>2.5</b>
1	生物環境の保全と創出	-	<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
2	まちなみ・景観への配慮	-	<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.1</b>
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI <sub>m</sub> =0.63	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
2	自然エネルギー利用	-	<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
3	設備システムの高効率化	BEI <sub>m</sub> =0.89	<b>2.5</b>	0.50	-	-	<b>2.5</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1	節水	自動水栓、擬音装置、節水型便器	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.5</b>	0.60	-	-	<b>3.5</b>
2.1	材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	グリーン購入・エコマーク商品(床材)	4.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	・躯体と仕上材が比較的容易に分別可能(LGS下地) ・再利用できるユニット部材(OAフロアー)	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.2</b>	0.20	-	-	<b>3.2</b>
3.1	有害物質を含まない材料の使用	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.3</b>	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火剤を使用	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.33	-	-	
3	冷媒	-	3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクル排出率93%	<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
2.1	大気汚染防止	燃焼機器使用なし	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音	-	3.0	0.50	-	-	
2	振動	-	3.0	0.50	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	・光害対策ガイドラインのチェックリストの一部を満たす ・広告物照明なし	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	